

# 住

## 愛知県室内装飾事業協同組合

# 快適な住まいづくりの 最後の仕上げ

### 材質の変化で難しくなった面も

カーテンを取り替えるだけで、部屋を明るくしたり、落ち着いた雰囲気を醸し出したりすることができます。さらに壁や天井の色、床材などとあわせて考えることで、部屋の広さや雰囲気は大きく変化します。

家具の配置やカーテンの交換などは比較的容易におこなえますが、天井や壁などの張替えは簡単にはおこなえません。住まいの最後の仕上げともいべき内装は内装仕上工の仕事です。最近では壁や天井などの仕上にビニールクロスが使われていますが、それ以前によく使われていたのは織物です。布のため端の部分がほつれたり、たるみが出たりすることもあります。それをきれいに仕上げることができるようになるには、かなりの熟練を必要としました。いまでも高級な料亭や住宅などでは織物を使うところがあります。

壁紙などが織物からビニールに代わり、糊も昔のようにデンプンを手でこねて現場でつくるものから、既製品へと代わりました。しかし、織物とは異なり、壁とクロスの間になぜか空気が入ってしま



うだけで仕上がりの美しさを損ねるばかりか、耐久性も劣ってしまいます。材質が変わったことで便利になった面もあれば、逆に作業が難しくなった面もあります。

### インテリアアカデミーで優秀な人材養成

室内装飾  
で大事なこ  
とは、きれい  
で丈夫に仕  
上げるだけ  
ではなく、イ  
ンテリアと



してのセンスです。戸建て住宅の場合は施主さんの好みが入りに反映されます。新築マンションの場合も最後の内装は入居者に決めてもらうようになっているものもあります。色彩、柄、材質などの幅広い知識も必要です。

愛知県室内装飾事業協同組合では施工技術だけでなく、インテリアの知識も兼ね備えた若い人材を養成するため、平成6年に愛知インテリアアカデミーを開校し、これまでに約80名の優秀な人材を養成してきました。最近はカーペットよりもフローリングを好む人も増えています。さらにブラインドやロールスクリーンを取り付ける住まいも増えています。こうした新しい技術の習得も必要になっています。

#### DATA ■愛知県室内装飾事業協同組合

所在地：中区大須一丁目22-30

昭和38年：名古屋室内装飾事業協同組合として県知事から認可

昭和42年：日本室内装飾協同組合連合会へ加盟

昭和50年：愛知県室内装飾事業協同組合へ名称を変更

平成元年：名古屋デザイン博に協賛し、インテリアフェアを開催

平成6年：愛知インテリアアカデミー（A.I.A）開校